

事業コード	H20-建-継-30		区 分	国庫補助 県単独
事業名	地すべり対策事業		部局課室名	建設交通部 河川砂防課
事業種別	砂防		班 名	傾斜地保全・砂防班 (tel) 018-860-2531
路線名等	加茂青砂		担当課長名	神居 勝康
箇所名	男鹿市船川港		担当者名	木内 昭
総合計画との関連	政策コード	C	政策名	快適で安全な生活を支える環境づくり
	施策コード	03	施策名	災害に強い県土づくりと危機管理体制の充実
	指標コード	05	施策目標(指標)名	土砂災害危険箇所整備率

## 1. 事業の概要

事業期間	H13 ~ H22 (10年)		総事業費	11.3億円	国庫補助率	1/2
事業規模	集水井工9基、集水B工7,413m、排水B工613m、横B工3,178m、水路工1,028m					
事業の立案に至る背景	<p>当地区の地すべり区域は、男鹿半島の西端部に位置し、秋田県を代表する観光地である男鹿国定公園内にある。保全対象として人家32戸に加え、主要地方道男鹿半島線が地すべり地を横断する形で供用している。この道路は第二次緊急輸送路となっているほか、国定公園内を周回する観光道路としても重要な公共施設となっている。地すべりが発生した場合、多数の人家、施設に土塊による被害が直接及びほか、男鹿半島線が寸断された場合、男鹿半島の観光産業へ与える影響は計り知れない。</p> <p>このため、地すべり防止施設の整備をもって住民の生命・財産を保全し、さらには、男鹿観光の振興を支援するためにも平成22年度の完成を目指すものである。</p>					
事業目的	<p>【主たる目的】 地すべりの原因となる地下水を集水井工・集水ボーリング工等により排除し、地すべり災害の発生・拡大を防止し、民生の安定を図る。</p> <p>【保全対象】 人家32戸、事業所3棟、県道 950m、市道 1,020m、加茂青砂診療所ほか3公益施設</p>					
事業費内訳 事業内容 (単位:千円)			計 画 時	評 価 時	増 減	理 由 等
	事業費		1,030,700	1,128,600	97,900	
	経費内訳	工事費	758,283	795,000	36,717	追加の対策工の実施による
		用補費	6,699	12,400	5,701	追加の対策工の実施による
		その他	265,718	321,200	55,482	追加の対策工の実施による
	財源内訳	国庫補助	515,350	564,300	48,950	
		県債	463,800	507,870	44,070	
その他		0	0	0		
一般財源		51,550	56,430	4,880		
事業内容		本工事費 地すべり調査 詳細設計 用地補償	本工事費 地すべり調査 詳細設計 用地補償			
事業の進捗状況	平成19年度末時点で全体計画の90%が完成しており、計画通りに進捗している。引き続き集水井工・集水ボーリング工等を施工し、平成22年度に完成する見込みである。					
事業推進上の課題	平成19年度の豪雨により、計画区域内に新たな変状が発生したため、追加の地すべり対策工を実施する必要が生じた。追加対策工を実施するために必要な本工事費及び調査設計費が必要になった。					
関連する計画等	「あきた21総合計画」第3期実施計画において、「災害に強い県土づくりと危機管理体制の充実」の施策として位置づけられている。					
情勢の変化及び長期継続の理由	事業の進捗は概ね計画どおりである。ただし地すべり対策は、その効果を見極めながら、段階的・計画的に実施し、安全度が確保された時点で完成となるため長期間を要している。					
事業効率把握の手法及び効果	指標名	土砂災害危険箇所整備率				
	指標式	概成箇所数 / 危険箇所数				
	指標の種類	成果指標	業績指標	低減指標の有無	有 無	
	目標値 a	23.4 %		データ等の出典	県 河川砂防課	
	実績値 b	22.7 %				
達成率 b/a	97.0 %		把握の時期	平成20年 3 月		

前回評価結果等	選定または継続 改善 見直し 保留または中止
	指摘事項
	特になし
	指摘事項への対応
	特になし

## 2. 所管課の自己評価

観 点	評 価 の 内 容 ( 特 記 事 項 )	評 価 点
必 要 性	明瞭な地すべり地形であり、県道男鹿半島線において亀裂等が発生していること、また、地すべり防止区域内に多数の保全人家があることから、地域住民の地すべりの安定により安全な生活の確保に対する期待度は高い。また、国立公園内にあることから、当該地区の住民だけでなく男鹿半島周辺の観光に関わる関係者にとっても地すべり対策のニーズは高いものとなっている。	20 点
緊 急 性	着手以来、地すべり防止施設の整備が進められているが、地すべりが活動した場合、極めて甚大な被害を及ぼす恐れがあるため、早急な地すべり対策の実施により安定化を図る必要がある。	10 点
有 効 性	[ 手段の妥当性 ] ( 代替案立案等の可能性 ) 地すべり対策事業は、地すべり等防止法第7条により都道府県知事が行うものとして位置づけられている。 [ 整備効果 ] 対策により、保全対象である多数の人家や公共施設の保全を図ることができ、対策の有効性は高い。	10 点
効 率 性	[ 費用対効果 ] 事業の費用対効果は3.83であり、効率性は高い。 ・総費用の現在価値 11.12億円 ・総便益の現在価値 42.55億円	30 点
熟 度	[ 地域の状況 ] 地元住民、男鹿市及び関係機関との合意形成が図られており、順調に事業が推進している。 [ 事業進捗の見込み ] 計画通り、平成22年度の完成を予定している。	15 点
判 定	ランク ( ) 各観点からも事業の重要性は高く、地域住民にとどまらず観光基盤の整備の観点からも優先度が高いと判定できる。	85 点
総 合 評 価	継続 改善して継続 見直し 中止 事業継続は妥当である。	

## 3. 評価結果の当該事業への反映状況等(対応方針)

引き続きコスト縮減に留意しながら事業を継続する。
--------------------------

## 4. 公共事業評価専門委員会意見

県の対応方針を可とする。
--------------

評価種別 継続箇所評価  
適用基準名 砂防課所管事業

事業コード(H20-建-継-30 )  
箇所名 (男鹿市船川港 )

1. 評価内訳

観点	評価項目 細別	評価基準	配点	評価点	摘要
必要性	県民のニーズ	変化なしまたは増加している	20	20	
		若干低下している	10		
		非常に低下している	0		
	計		20		
緊急性	危険度	変化なしまたは増大している	10	10	崩壊進行、地下水位上昇等 地下水位低下、残斜面安定
	斜面、溪流等の危険度	若干低下している	5		
		非常に低下している	0		
	計		10		
有効性	災害発生時の影響	変化なしまたは増加している	10	10	
	保全対象数の変化	若干減少している(80%以上)	5		
		非常に減少している(80%未満)	0		
	計		10		
効率性	事業の効率性・進捗状況				
	費用便益分析(B/C)	1.0以上	10	10	
		1.0未満	0		
	対策工法、工事に関連する課題	課題なし又は解決済みで順調な進捗が見込まれる	10	10	
		課題はほぼ解決済みであり、進捗に大きな影響はない	5		
		課題はあるが、解決する見込みである	3		
		課題解決の見込みなし又は事業が停滞している	0		
コスト縮減計画	具体的なコスト縮減計画がある	10	10		
	具体的な計画はないが、検討中である	5			
	コスト縮減計画無し	0			
計		30	30		
熟度	地元の協力状況				
	事業の進捗状況	計画どおり進捗している(100%以上)	10	5	
		概ね計画どおり進捗している(70%以上100%未満)	5		
		計画より遅れている(70%未満)	0		
	地元住民・関係自治体等に関連する課題	課題なし又は解決済みで順調な進捗が見込まれる	20	10	用地、補償物件等
		課題はほぼ解決済みであり、進捗に大きな影響はない	10		
		課題はあるが、解決する見込みである	5		
	課題解決の見込みなし又は事業が停滞している	0			
計		30	15		
合計			100	85	

2. 判定

ランク	判定内容	配点	判定	摘要
	優先度がかなり高い	80点以上		
	優先度が高い	60点以上～80点未満		
	優先度が低い	60点未満		